

# 第一生命におけるESG投資の進化

第一生命保険社長

稲垣 精二  
いながき せいじ



第一生命は、日本全国の約1000万名の保険契約者からお預かりした約36兆円の資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」として、運用収益の獲得と社会課題解決の両立を目指すESG投資を推進している。2020年4月には「第一生命のESG投資の基本方針」を策定・公表し、持続可能な社会の実現に向けたESG投資の取り組みを一層力強く進めていくことをコミットした。

## 生命保険は現世代と将来世代の橋渡し

元来、生命保険事業は、生命保険のご契約者から保険料をお預かりし、ご契約者の子供世代に保険金をお渡しするという、今の世代と次の世代の橋渡しを担う仕事、両世代をコネクトする仕事である。つまり当社の最大のステークホルダーは次世代(私達の子供世代)であり、次世代を守ることが当社の使命とも言える。こうした思いのもと、これまで生命保険商品・サービスを通じて、相続や資産承継・保障といった安心の提供・経済面

でのサポートを行ってきた。

しかしながら近年は、地球温暖化による自然災害の増加や、新型コロナウイルス感染の拡大など、社会そのものの持続可能性が大きく問われており、将来世代に灼熱の世界や飢饉のような世界を残さず、安心して暮らせる住みやすい社会を構築することが重要な課題になっている。こうした背景を踏まえ、保険商品の提供だけでなく、現在の世代と将来世代をコネクトするという同じミッションのもと、お預かりした保険料の運用においても、持続可能な、レジリエントな社会の実現に挑戦することが私たちの使命である。

## 全資産36兆円のESG投資を目指す

そのために当社は真剣にESG投資に取り組んでおり、今後、全資産の運用方針・運用プロセスにESGを組み込むことで、36兆円全ての運用資金でESG投資を行うことを目標に掲げている。これまでも、株式や社債などのリサーチプロセスへのESG要素組み込

みや、ポジティブ・スクリーニングと呼ばれるESGスコアを活用した運用手法の構築などに取り組んできたが、この取り組みをさらに加速・高度化させることで、社会課題解決に資する運用ポートフォリオの構築を行う。2020年4月にはESGアナリストを新たに設置するなど、人的リソースも強化した。

ESGは、中長期的な視点での企業価値向上に不可欠な要素であり、ESG投資への取り組みは、経済的リターンの向上やダウンサイドリスクの抑制に繋がると考えている。生命保険会社のような中長期視点での運用スタイルを有する投資家にとっては、ESG投資の時間軸との親和性が高い。特にアフターコロナの世界では、サステナブルな社会の構築に対して真摯に、先行して取り組んでいる企業が、世界経済の回復・成長、そして「Build Back Better(より良いものに再構築していく)」をけん引することになると見込まれる。そうした企業に対する資金供給を通じて、経済的リターンと社会的リターンの両

図表 第一生命のESG投資の取り組み推移

年度	2010年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ESGテーマ型投資			再生可能エネルギー発電所関連等のSDGs事業への投資					気候変動対策をテーマとした投資の推進
			国際開発金融機関等が発行するSDGs債への投資					
						インパクト投資		
							地方創生・地域活性化に資する投資	
ESGインテグレーション			国内株式ESGインハウス運用					気候変動要素の組込
							外国株式ESGインハウス運用	
						リサーチへのESG組込		気候変動要素の組込
						ESG対話		気候変動を対話の重点テーマに設定
						ネガティブ・スクリーニング		対象兵器の拡大
						ESG投資の普及促進		責任投資活動報告公開

誰ひとりとして取り残さないためのエンゲージメント

ESG投資によって持続可能な社会の実現

面を最大化することを目指している。

を目指すために、当社はエンゲージメント（中長期的な対話）を特に重要視しており、あらゆる業態に投資しているユニバーサル・オーナーとして、それぞれの企業が真摯にサステナブルな課題に向き合い、解決に向けて取り組んでもらえるようにスチュワードシップ活動を行っている。

当社ではESGエンゲージメントを2017年から本格化させたが、今では対話テーマのうちおよそ4割を環境・社会課題に関するテーマが占めている。今期は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、持続可能なビジネスモデルへの変革に向けた経営方針（DX対応など）や、取引先などのサプライチェーン全体の安全・健康確保への取り組みなどの対話を強化する。

ダイベストメントのように、対応しないから突き放すという姿勢ではなく、全ての企業・オーナーの誰ひとりとして取り残さないという気持ちで取り組むことで、サステナブルな社会への移行（トランジション）を目指している。

**Society 5.0実現に向けた  
リスクマネー供給による  
イノベーション創出**

加えて生命保険会社の運用機能として、リスクマネー供給の視点も重要である。これまでも当社は、各時代における社会課題に向き合い、長期資金の供給を通じて日本経済の成長に貢献してきた。高度経済成長期には、融

資・株式投資を通じて成長産業の発展に寄与し、安定成長期には、長期国債投資を通じて日本の財政下支えの役割を担い、公共インフラの整備に貢献した。

当社のESG投資では、SDGs債や再生可能エネルギー発電事業など、社会課題解決に資する資産への投融資を積極推進しているが、とりわけ、革新的なイノベーションの創出に向けた成長企業への投資に注力している。運用収益の獲得と社会的インパクトの創出（社会の構造変化など）の両立を意図して投資判断を行う「インパクト投資」の投資手法を2017年に導入し、QOL (Quality of Life) の向上や気候変動問題などの社会課題解決に向けた革新的技術を有するベンチャー企業への資金供給を活性化させている。併せて、複数の大学機関との包括連携協定を締結し、大学発のベンチャー企業の発掘・投資も進めている。

イノベーション（社会の変革）を通じて、経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety 5.0の実現に向けては、企業・スタートアップ・大学・政府などが一丸となった産学官連携の体制が不可欠であり、当社は長期・安定資金の供給機能を通じて、イノベーションの創出を後押ししていく。

以上のように、第一生命は真つ先に、真つすぐにESG投資に取り組むことで未来にコネクトし、持続可能でレジリエントな社会の実現を目指していく。